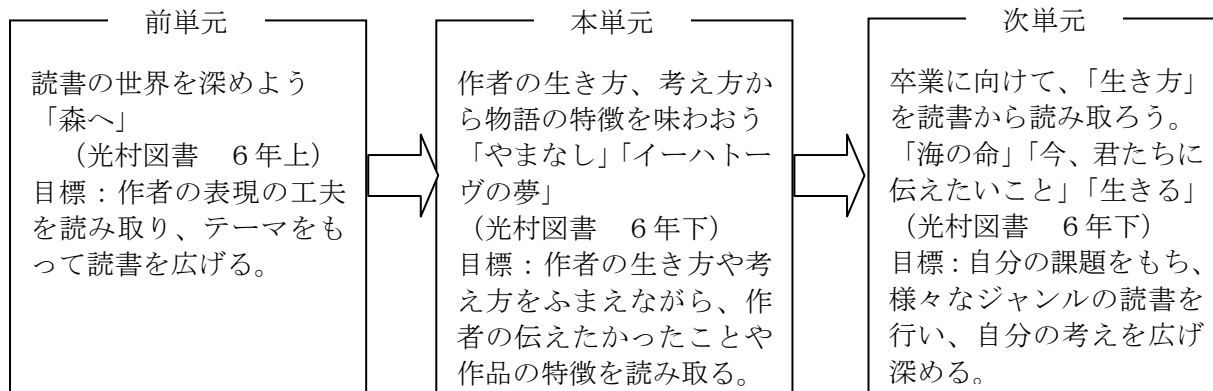


# 国語科学習指導案

1. 学年 第6学年
2. 単元名・教材名 イーハトーヴの心象スケッチ  
 ー賢治の生き方、考え方そして物語の表現を味わおうー  
 主教材「やまなし」「イーハトーヴの夢」(光村図書 6年下)  
 副教材「雨ニモマケズ」「注文の多い料理店(序)」そのほか宮沢賢治の物語

### 3. 単元の関連



### 4. 単元の目標

- 宮沢賢治の童話や伝記を読み、賢治の生き方や考え方が作品にどのように表れているかを考え、賢治の作品の特色について考えを広げたり、深めたりする。
- ・ 複数の作品を読み、着目点をもって比べて読むことにより、表現の特徴や場面の相違をより具体的に読み取ることができる。
- ・ 複数の作品から必要な情報を取り出し、解釈し、自分の体験や考えに基づいて評価することによって、読み取ったことを活用することができる。

### 5. 指導計画(全13時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価の場面や方法
I	1	学習課題 教材文「やまなし」を通読し、宮沢賢治の表現の特徴や作者の考え方に迫るための学習計画を立てよう。 関：「やまなし」の内容や表現、作者の考え方に興味・関心をもち、学習計画を立てようとしている。 読：作品の内容や表現に着目して、興味をもったところ、読み深めたいところを把握し、学習計画を立てている。 書：「やまなし」を読んで自分なりに抱いたイメージを感想として書いている。 言：理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣がついている。	○パワーポイントで絵本の絵を拡大して提示し、イメージがしやすいようにする。 ○作品の特色や作者のものの見方がよく表現されているところに注意して読むように指示する。	

	2	<p>2. 「注文の多い料理店」の(序)文を読み、賢治がどのような思いで童話を書いたのかを知る。</p> <p>3. 自分なりの「賢治像」を思い描き、感想カードに書く。</p> <p>4. 前時に書いた初発の感想や賢治についてのイメージをもとに、作品や伝記を読み取る着目点を考える。</p> <p>5. 学習課題を立てる。</p>	<p>○作品に対する賢治の思いがよく出ているところに気付くようにする。</p> <p>例「どうしてもこんなことがあるようではかたがないということ、わたくしは書いたままで」「あなたのすきとおったほんとうのたべものになることを、どんなにねがうかわかりません」</p> <p>○よくわからなかったところ、もっと読み深めたいところ、賢治についてのイメージを書くように指示する。</p> <p>○様々な賢治の文学に触れることを知らせ、賢治の生き方や考え方が文学作品にどのように表れているか考えるようにする。</p> <p>○「比べて読む」ことを伝え、何と何を比べるのか、どのような事柄に着目して比べるのかを話し合う。</p> <p>○賢治自身が自分の考えを表現することを「心象スケッチ」と呼んだことを伝え、賢治の童話を読み広げ、6年2組なりの「イーハトーヴの心象スケッチ」を作り上げることを知らせる。</p> <p>○「心象」の語意を辞書で調べ、「心に浮かんだイメージ」であることを共通理解しておく。</p>	<p>☆初発の感想や賢治についてのイメージを書いている。</p> <p>【感想カード】</p> <p>☆比べて読むことを理解し、読みの着目点を取り入れた学習計画を立てることができている。</p> <p>【自己評価カード】</p>
II	3	<p>6.</p> <p>7. 「やまなし」の二枚の幻</p>	<p>○「比べながら読む」「読みの視点をもって読む」ことを意識して読むようにする。</p> <p>○詩中の語句「デクノボー」について辞書的な意味と、この賢治の中での意味を対比するようにする。</p> <p>○賢治の表現の特徴を記したアドバ</p>	<p>学習課題 物語の内容や表現、作者の考え方や生き方に着目して複数の文章を比べて読み、賢治の作品の特色について考えを広げたり深めたりしよう。</p> <p>関：賢治の作品や賢治の考え方・生き方に興味・関心をもって複数の文章を読もうとしている。</p> <p>読：複数の作品や文章を読み取る着目点をもって比べて読み、表現の特徴や場面や内容の相違を読み取ることができる。</p> <p>話・聞：読み取ったことを根拠を示しながら発表したり、友だちの意見と自分の意見を比べながら聞いたりすることができる。</p> <p>書：読み取ったことを文章に即して、自分なりの表現でまとめている。</p> <p>言：語感や言葉の使い方に関心を持ち、表現の効果について考えている。</p>

	<p>4 灯を比べて、情景を読み取る。</p> <p>5 8. 「やまなし」の書かれている、賢治特有の描写を読み取り、その表現の効果を考える。</p> <p>6 9. 「イーハトーヴの夢」を読み出来事と賢治の考え方や生き方の部分に分ける。</p> <p>7 10. 賢治の年表を作成する。</p> <p>8 10. 「イーハトーヴの夢」と「やまなし」を比べて読み、賢治の考え方や生き方が「やまなし」のどこに表現されているか考える。 11. 「やまなし」の題名について、ふさわしいと思うかどうか理由を挙げて説明する。</p>	<p>イスノート「イーハトーヴ語ノート」を配布し、単元を通じて参照したり、随時付けたしを書き加えたりするように助言する。</p> <p>○色彩表現、オノマトペ、登場する生き物、比喩表現などに着目し、五月と十一月の幻灯の対比を行うようにする。</p> <p>○一目で対比が分かるように、読みの視点を示したワークシートで、一人学びをする。</p> <p>○五月の十一月の幻灯の対比より、どのようなイメージを表現しているのか読み取るように助言する。</p> <p>○最初に賢治の人生の区切りを話し合い、伝記の文章を分け、読み取りがしやすいようにする。</p> <p>○出来事や考えや生き方が出ている部分を区別して、それぞれ教科書にサイドラインを引く。</p> <p>○「年表ワークシート」に主要語句を書き込み、まとめるようにする。</p> <p>○賢治の言葉に着目するように助言する。</p> <p>○「石こ賢さん」「木の心を自分のことのように思って」などの伝記の言葉を引用し、「やまなし」の表現を読み取っていくようにする。</p>	
III	<p>9 12. 賢治の年表を手がかりに、それぞれの時代に書かれた賢治の童話を読み広げる。</p>	<p>○読みたい童話ごとにグループに別れる。</p> <p>○読書の苦手な児童にはブックトークや、あらすじの一部や「読みどころ」を書いたブックガイドを渡し、読書の手立てとする。</p>	

11	13. グループでどこに賢治らしさが出ているか、話し合う。	○「やまなし」「イーハトーヴの夢」で読み取ったことをふまえて、賢治らしさを探すように助言する。	
12	14. 各童話の賢治らしさを発表する。	○「イーハトーヴ語ノート」を使って読み進めたり、発見したことを付け加えたりするように助言する。	
13	15. イーハトーヴの心象スケッチを仕上げる。	○いろいろな意見を出しやすいように、「イメージマップ」に書き込みそれをもとに話し合いを行うようにする。 ○それぞれが読み取った童話から、「宮沢賢治」とはどのような人物なのかについてまとめ発表する。	
		○各グループからでた意見を一つの「イーハトーヴの心象スケッチ」としてまとめあげる。	